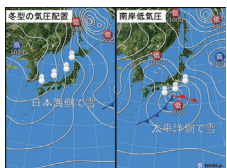


この冬は、あまり雪の降らない関東で何度か雪が降り、東京都心でも雪が積りました。また、度々強い寒気が流れ込み日本海側を中心に大雪となった所がありました。大雪に対する注意はまだ必要ですが、春の足音が聞こえてきているこれからの時期は、雪崩に注意が必要になります。毎年のように雪崩による災害が発生していて、集落での雪崩の発生件数の8割以上が1月から3月の間に集中しています。全国には集落を対象とした雪崩の危険箇所が2万箇所以上あり、雪崩は身近な危険でもあります。雪崩には主に2つの種類があり、主に1月〜2月の厳冬期に起こる「表層雪崩」と、これからの春先に起こる「全層雪崩」です。「表層雪崩」は、これまでに降り積もった雪が凍り、その上を新雪が滑り落ちる雪崩です。スピードが速いのが特徴で時速200キロに達することがあります。「全層雪崩」は、春先になり気温が上昇すると、凍っていた下層の雪も融けて、全体の雪が滑り落ちる雪崩です。凍った重い雪も一緒に流れ落ちるため、「表層雪崩」よりスピードは遅くなりますが、それでも時速40〜80キロほどになります。どちらの雪崩も発生してから逃げるのは困難なため、事前に雪崩が起こりそうな場所を知っておくことが重要になります。その特徴は、なだらかな場

所より、傾斜の角度が30度以上の急斜面。大きな木が高密度で生えている場所より、小さな木や草がまばらに生えている所の方が発生しやすくなります。また、過去に雪崩が起きている場所や、ボールのような雪の塊が大量に転がる斜面、また、雪面にひび割れやしわが見られる時も雪崩の発生の危険性が高まっている合図になります。気象条件としては、「表層雪崩」は、気温が低い日が続き、すでに雪が多く積もっている所に、さらに短い時間で雪が降り積もった場合や、猛ふぶきや強い風が吹きつけた場合に発生しやすくなります。「全層雪崩」の場合は、急に暖かくなった時や、まとまった雨が降った時に雪どけが進み、発生しやすくなります。万が一、雪崩に巻き込まれた場合は、流れの端に向かって逃げ、埋もれた際は雪の上に浮上するようにしましょう。暖かくなってきてレジャーなどで山に出かける予定を立てている方もいると思いますが、「なだれ注意報」が出ていないかなど最新の情報を確認して、安全には十分に気を付けてください。 日本気象協会 牧 良幸 <https://tenki.jp/>



世界文化遺産：鹿苑寺
京都府京都市北区金閣寺町にある臨濟宗相国寺派寺院の境外塔頭だが、建物の内外に金箔が貼られた舍利殿の姿から金閣寺の名で知られている。正式名は北山鹿苑禪寺。寺名は開基の室町幕府第3代将軍足利義満の法号・鹿苑院殿に因っており、義満の北山山荘をその死後に寺とした。舍利殿は昭和25年に放火で焼失したが、昭和30年に再建された。平成6年にユネスコの世界文化遺産「古都京都の文化財」の構成資産に登録された。

- P1 - 2022年提言
- P2 - 鉄道車両は動く文化財® / COLUMN
- P3 - アメリカこぼれ話7 / 天下の「暴論」
- P4 - NEW SPOT
- P5 - 旅は世につれ… (最終回)
- P6 - BI, サブスク / 研修と観光
- P7 - JN見学会報告 / 澤田理事を偲ぶ
- P8 - 気象と天気 / 編集後記

2022年 提言

国立大学法人 筑波技術大学 監事 大島 慎子

JAPAN NOW 観光情報協会は、2001年、石原慎太郎東京都知事に認可された東京都では第一号の観光系NPOであり、20年以上の歴史を刻んでいます。戦後、製造業と輸出で経済復興をしてきた当時は、物見遊山と言われていた観光を、産業として確立し、地方創成の核とする政策は、小泉政権の観光立国宣言で始まりました。しかしながら、世界中を巻き込んだコロナ禍で、観光は再び「不要不急」の位置づけにならざるを得ず、打撃をうけた方々が多いのは社会問題でもあります。

観光は余暇に旅行者が魅力のある地域に移動して、地域の人々と触れ合うことで充実感を味わうものです。映像やネット情報は行動を起こすきっかけになり得ても観光を満喫することにはなりません。地域に平和な環境が保障されていることが重要と再確認する次第です。私自身はドイツの航空会社に長く勤務したため、テロもハイジャックもあり、地域紛争があれば国民を救出しに民間航空機が徴用されるような環境を経験しましたから、平和が第一です。また、かつては紛争や伝染病で旅客需要が無くなって、貨物需要が増えていましたが、コロナ禍は全く新たな局面でした。

観光面でドイツに学べるのは、余暇や休暇を楽しむのは貴族の特権ではなく、労働者に休暇を与える政策が第一次大戦前から行われたことは評価すべきでしょう。日本人観光客が多く訪れるロマンチック街道は、ドイツに150以上ある

観光街道の一つですが、基本は休暇街道(Ferienstrasse)です。つまり個人の休暇を楽しむための観点を企画運営されています。アグリツーリズムと言われる農家滞在も、ドイツでは遠方に行けない都市の住人に近隣農家で休暇を過ごさせるために整備されたものです。つまり日本とドイツの観光施設を比べると、外見は似ていますが開発の理由は異なります。今回のコロナを考えると、ドイツの場合、国民が休暇をすぐず習性はかわらないので、コロナ後も国内旅行に戻る可能性はあります。一方、日本の場合は海外旅行ができなかった富裕層が昨年国内個人旅行を行ったので、高級な宿泊施設が集客できているようです。しかしそれが継続するのは予測できません。

日本は観光資源の宝庫です。地域資源を活用して旅行者を滞在させ、その収益を還元させて地域の資源を保全するような手法は、世界に見本が沢山あります。更に広い視野をもち、観光立国の実現に努力したいと考えています。

大島慎子 プロフィール

国立大学法人 筑波技術大学 監事
日本国際観光学会 監事
早稲田大学大学院国際経営学修士
ルフトハンザドイツ航空客室乗務員、客室人事
日本韓国地区広報室長、スイス系PR会社を経て
2006年より筑波学院大学情報コミュニケーション学部教授、経営情報学部学科主任、学長
東京家政学院理事、早稲田大学、放送大学学園評議員、日本広報学会理事、JAPAN NOW 観光情報協会理事長等を歴任

| | | | | | |
|------|----------------------|--------------------------|-----------------------------------|----------------------------|--------------------|
| 役員 | 特別顧問 | 丹羽 晟 (日本空港ビルデング顧問) | 本保 芳明 (国連世界観光機関 駐日事務所代表) | 大島 慎子 (国立大学法人筑波技術大学監事) | |
| | 理事長 | 寺前秀一 (人流観光研究所長) | 副理事長 | 岡村 進 (元小田急トラベル社長) | |
| 役員 | 事務局長 | 杉 行夫 (理事) | | | |
| | 理事 | 須田 寛 (東海旅客鉄道顧問) | 分家 静男 (元射水市長) | 堤 りり (元宮崎放送) | 山田 早苗 (元近畿日本ツーリスト) |
| 団体会員 | | 近藤 節夫 (日本ベンクラブ会員) | 長尾 亜夫 (西日本鉄道相談役) | 今井 智康 (ケアアンドケアロド(株)代表取締役) | 望月 義人 (筑波学院大学学長) |
| | | 高橋 俊朗 (元(株)小田急システム取締役社長) | 辛嶋 保馬 (元 JTB 国会担当、佐藤和弘公認会計事務所相談役) | 田阪 友隆 (NHK インターナショナル 専門委員) | 片山 裕司 (花園神社宮司) |
| | | 杏掛 博光 (旅行ジャーナリスト) | | | |
| | | アイエスカンパニー | 一般財団法人 NHK インターナショナル | 株式会社 えんい いしゃ | 小田急電鉄株式会社 |
| | | 社団法人 らしのリサーチセンター | 株式会社 グリーンキャブ | 三普旅行社有限公司 | 住友電設株式会社 |
| | 大成建設株式会社 | 大成設備株式会社 | 大成有楽不動産株式会社 | 株式会社 丹青社 | |
| | 株式会社 ダイエー コンサルタンツ | 東海旅客鉄道株式会社 | 財団法人 東京観光財団 | 西日本鉄道株式会社 | |
| | 公益社団法人 日本観光振興協会 中部支部 | 日本空港ビルデング株式会社 | 専門学校 日本ホテルスクール | | |
| | 広島電鉄株式会社 | 福岡国際空港株式会社 | 北海道空港株式会社 | 株式会社 ホテル小田急 | |
| | | | | ホテルメトロポリタン | |

編集後記: 2月も下旬に入り、もう1週間もすると、春の兆しが伺えるようになるだろう。2022北京オリンピックも最終日を迎えた。4日に行われた開会式、91国・地域の入場順は、中国の標準漢字(簡体字: 簡体字の「簡」もこの字ではない)の字画順であった。半年余り前に行われた、1年延期の東京オリンピック2020では、五十音順であったが、最初のギリシア(希腊)、最後の中国、その1つ前が次回開催国 90. イタリア(意大利)である。ギリシアの次は 2. トルコ(土耳其)、3. マルタ 4. マダガスカル 5. マレーシア。頭文字は簡体字(馬?)のため私のワープロでは打てないが、6. エクアドル 7. エリトリア は(厄)と3画が続く。日本は4画、8. ジャマイカ(牙)、9. ベルギー(比)に次ぐ 10. 番目であった。最後は 89. オーストラリア(澳)で、15画となる。因みに、オーストラリアは(奥)で12画、簡体字でなければ日本語ワープロで表記出来、字画も数え易い。ネットで「2022北京オリンピック」を検索して、漢字表記を是非、見ていただきたい。頭文字だけでも異国情緒が感じられるに違いない。私が、字画順を経験したのは、台湾へ蒸気機関車を買に行っていた頃、1970年代。この地の電話帳を使った時のことだ。使いこなすことなど出来なかつたが、全く支障なかつた。もともと、「漢和辞典」は字画順だ。1970年代に使われていたIBMのパーソナル・コンピュータに付けられた、漢字索引は、1つの字に対し、読み方毎に何回も掲載されており、利便性を感じたことがあった。多様性は奥深い。(杉)

特定非営利活動法人《NPO》
JAPAN NOW
観光情報協会

東京都港区東麻布 1-27-3
〒106-0044
電話 03(5989)0902
FAX 03(5989)0903
E-mail info@japannow.org
<https://www.japannow.org/>

発行人: 寺前 秀一
編集長: 杉 行夫

主な配布先: 会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

鉄道車両は動く「文化財」⑧

“山を登る”機関車 ED40形10号

JR 東海 顧問 須田 寛

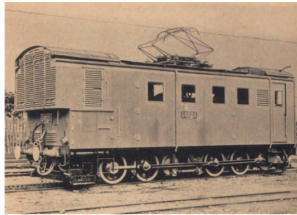
“山を登る”鉄道といえど浮かぶのは「箱根登山鉄道」です。同鉄道は80/1000(水平方向に1000m進む間に80mの高さを登る)という日本最急勾配の鉄道です。そしてこれに次ぐのが平成9年長野新幹線開業時まで営業していたJR東日本(旧国鉄)信越線の碓氷峠を越える横川・軽井沢間の区間(勾配66.7/1000)でした。箱根登山線は短編成の電車で強力モーターを備え、ブレーキ装置も三重系にした重装備でしたが信越線は旧国鉄の幹線だったために全国共通の客車貨車を運行しなければなりません。そこで特殊装備の登山用ともいべき機関車を用意して急坂区間の横川・軽井沢間をこの特殊機関車で汎用の客貨車をけん引する方式をとりました。

信越線の全通は1912(明治26)年ですがこの区間の機関車には当時ドイツ、スイスなど欧州の登山鉄道で使われていた「アパート式」を採用しました。2本のレールの間にラックレールという歯型のきざみのついたレールを敷きこのレールと機関車の車両に直結した歯車とをかみ合わせて空滑りを防止して勾配区間を運行したのです。そして急坂ですから連結器に無理な力がかからないよう機関車は坂下側に3両、坂上側は1両という配分で連結、牽くというよりむしろ押し上げるかたちで坂を登り、下りは坂下側の機関車3両が先頭になってエンジンブレーキに当たる発電ブレーキを働かせ乍ら坂を下りました。開通当初は蒸気機関車だったのですが横川軽井沢間、約11kmに26ものトンネルがある難所だった

ので旧国鉄初の幹線電気区間としてこの区間は1912(明治45)年から電気機関車で運行しました。最初の電気機関車はドイツからの輸入機でしたが、1921(大正10)年に降国産機とすることとなりその量産機関車として登場したのがこの鉄道ED40形で10号車は国鉄(鉄道院)新橋工場製でした。

また電化に当っては山間部の短区間であったことから専用の火力発電所と変電所を横川近くの丸山地区に建設(現在も建屋の一部を保存)しました。変わったところでは先述のように押し上げ運転を主とする関係上片運転台がそれも坂下(横川)側についており坂上側は機械室のみとなっていることです。ブレーキは真空ブレーキ・発電ブレーキを併用する二重系で登山鉄道さながらの安全装備となっていました。この車両はのち日光軌道会社へ譲渡され日光付近の貨物輸送を担当したのち旧国鉄に戻り現在はさいたま市のJR東日本「鉄道博物館」で展示されています。又横川・軽井沢間は途中駅もなく新幹線開業で使命を終えて現在は廃線となりました。

鉄道省10020形電気機関車(後のED40形)
写真: 鐵道一瞥 鐵道省 国立国会図書館デジタルコレクション 常設ID 1899286



「碓氷鉄道むら」の名で安中市とJRが開設した産業観光施設でこの一部区間が当時の姿のまま保存され見学も可能です。又ED40形は2018(平成30)年国の重要文化財に指定されました。

た道路上に別の野良犬の惨めな死骸が目に入った。マレーシアに入っても同じように所々に野良犬の死骸を見た。これではシンガポールに到着するまでに一体何匹犬の死骸を見ることになるだろうか。

そして、旅も終わりに近づいたころ、こともあろうにわがバスがとんでもないことをやりました。ドン! バスが道路を横切ろうとした野良犬に勢いよく体当たりしてしまっただけ。乗客の間から一瞬「危ない! キャー!」と悲鳴が上がったが、ドライバーはまったく気にする素振りを見せなかった。バスを停めて確認のために一旦降りたが、間もなく戻ってきて言った。「犬は死んでいる。すぐ出発しよう」。

こうしてシンガポールまでの間に、わがバスが轢き殺してしまったワンちゃんを含め、何と15匹の犬の犠牲体を見ることになった。

ペット・ブームの今の日本ではとても考えられないが、「働くもの食うべからず」の国では野良犬のような食いつぶしは、儚く哀れな運命をたどることになる。つくづく南方の野良犬に生まれなくて良かったと思う。

エッセイスト 近藤 節夫

観光立国セミナー見学会

1月19日「大船フラワーセンター」



真冬の季節、気温7度、日比谷花壇 大船フラワーセンター見学会を開催しました。参加者は12名。

大船フラワーセンターは神奈川県内の観葉植物の生産振興と花き園芸の普及のため、昭和37年に神奈川県農業試験場の跡地に開設されました。4年前花壇拡張、桜広場の新設、エレベーター新設のバリアフリー化等ハード面も整備して日比谷花壇大船フラワーセンターとしてリニューアルオープンし、初代園長に就任したのが榎本浩さんです。

榎本園長は日比谷花壇造園土木に勤務、緑化推進事業を手がけてきました。都立夢の島公園・熱帯植物館を7年間務め、大船フラワーセンター園長として、地域に根付いた植物園を目指して、鎌倉・大船育ちの植物を多く育てています。

はじめに榎本浩園長から園内のご案内があり、フラワーセンターのオリジナルの花や樹木のお話がありました。

シャクヤクはこの地で品種改良をした大船系を中心に210品種、ハナショウブはこの地独自の系統120品種、ツツジ・シャクナゲも県内で育成された100品種が植栽されています。バラ園には370品種が四季を彩り、神奈川で育成されたコーナーもあります。

その他ハス、サクラソウ、ツバキ、ウメなど3,000種が季節を彩っています。

榎本園長と一緒に歩きながら先ずは干支「トラ」の葉ボタンの絵文字が目飛び込んできました。冬に咲くアイス



澤田利彦理事を偲ぶ

副理事長 岡村 進

本協会の重鎮・澤田利彦理事が1月17日急逝されました。享年77歳でした。

澤田氏は現国際観光振興機構(旧・日本政府観光局・JNTO)に勤められ、青年事務官の頃に、当協会の初代理事長・丹羽晟氏(旧運輸省)とアメリカで同時期に滞在し、お互いによく助け合い、アメリカ文化を学び、有意義な、痛快な観光立国体験をされたエピソードを度々、語っておられました。

ジャパンナウ観光情報協会発足当時には、丹羽さんのご指導で、「観光立国とは何か」について語り合う勉強会がありましたが、アメリカ文化に通暁した澤田さんに教わるが多

かったものでした。チューリップが色鮮やかです。ハス・睡蓮の池は冬なので花の影も形もありません。その池に沿って鉢植えのハスがありその数は200鉢を超えます。それぞれ名前がつけられ今は根だけです。7月中旬には開花し、見張るほどの華やかさだと言います。

バラ園を通り、見頃は6月のハナショウブの隧道を渡り「グリーンハウス」に行きつきます。元は観賞用の温室でしたが、4年前の大改修で経費削減もありボイラーの使用を止め「無加温室」に衣替え。冬の明け方の室内は2度まで下がりますが晴れた昼間は30度位まで上がるそうです。寒さから守る工夫として、植物(木)は根元を冷やさなければ生きてるので、根元をわらで覆い日本古来の方法で寒さから守ります。

そのためこの4年植物は寒さに耐え、ブーゲンビリアやハイビスカス、バナナなど枯れることもなく成長したと言います。無加温室に入ると植物が発する温度もあり温かく、湿度もあり心地良さを感じました。大船フラワーセンターでは、年間を通して見頃の花が開花し、植物を通してのイベント等数多く開催されています。園長によるガイドツアー「園長散歩」も時々あり盛り沢山です。

詳しくは
<https://www.fcouna-kanagawa.jp/>
TEL0467-46-2188 まで
大船フラワーセンターへは
大船駅西口観音側より徒歩16分。バスもあります。



かったものでした。

10年ほど前に、松蔭大学が観光学部を新設することになり、本協会に人材派遣の要請がありました。澤田さんは要請に応じられ、教授として得意のアメリカ文化を中心に観光立国の意義を講義され、学生に支持され、喝采を博しました。

社会貢献に強い思いをもたれた澤田さんは、本協会においては、観光セミナーの講師を務められ、2019年に「新世代の観光立国」を刊行した折には執筆参加されるなど、多大な貢献をされ、大学では最近まで学長補佐を務められ、人間性豊かな、明るくお人柄の観光立国教育者として、皆さんに慕われ、今後、さらなる活躍を期待されておりましたのに、急逝は痛恨の極みです。合掌

NHK インターナショナル専門委員 田阪 友隆

日中放送交流の歴史を振り返ると番組や技術の交流に付随して日本国内で行われる研修が大きな存在になっています。中国からの参加者は、研修に伴う「文化視察」と称する観光地を巡る旅で、各地の風景・食べ物に感動し、帰国後も例外なく日本ファンになってリピーターとして家族や会社の同僚を伴って再度、再々度、日本を訪れます。新型コロナの蔓延で2年余り、研修は実施できていません。コロナが明ければ必ず再開したいと思っています。ここでは、NHKの日中放送交流の窓口を務めてきた経験に踏まえて「研修と観光」と言うテーマで3回にわたってお話ししていきます。1回目は、日中の放送交流の歴史です。



日中の放送分野での交流は番組の共同制作をメインに、1980年代のNHK特集「シルクロード」をその嚆矢とし、その後もドキュメンタリー・ドラマなど様々な分野で続いてきました。日本中の人々の涙を誘った「大地の子」や中国の改革開放を描いたスペシャルシリーズ「12億人の改革・開放」などの特集番組が、その時々テレビ界の大きな話題になりました。こうした番組の交流だけでなく、技術での「交流」と言うよりも「技術移転」も盛んにおこなわれてきました。例えば、NHKが開発した8Kに関して、中国の技術陣は熱心に取り組み、いまや、中国は、8Kでは世界の最先端を走っています。実は、日本人の間では、ほとんど知られていませんが、昨年の東京オリンピックの8K国際中継は、20数種目すべてを中国のスタッフが先行中継車も上海港から運んできた20台余りを使いました。また、北京の冬季オリンピックを前に8K専門チャンネルを2つ開きました。一方、日本はNHKがBS4Kチャンネルに8Kの番組を一部入れている程度にとどまっています。もはや技術の点では日本は中国に完全にキャッチアップされ、引き離されようとしています。(つづく)

観光トピックス

■西九州新幹線(武雄温泉～長崎間)開業日が決定

西九州新幹線(武雄温泉～長崎間)の開業日が決定。西九州新幹線(武雄温泉～長崎間)が2022年9月23日(金)に開業することが決まった。武雄温泉～長崎間の延長は66km、駅数は5駅で新幹線(武雄温泉・長崎間)及び大村線新駅の駅名は「嬉野温泉(うれしのおんせん)」、「新大村(しんおおむら)」となる。なお、既存の在来線と併設する武雄温泉、

ベーシックインカム、サブスクリプションによる共生共産社会の実現

人観光研究所長 寺前 秀一

コロナ禍、欧米メディアではガソリン価格上昇等インフレ懸念を報道している。日本は相変わらずデフレ対策だとして、国債や公的資金による株の買い支えが実施され、日銀が50兆円、年金運用法人が180兆円の大株主と、いつから社会主義国家になったのかと混乱してしまう。これでは東京メトロ株も財務省から日銀、年金に移動するだけだと異論がでかねない。国債発行高も千兆円を超え借金大國批判がでているから国としての借金ではなく、デフレ対策であれば国債をいくら発行しても構わないとする(対外的な日本経済の評価が下がれば為替相場に影響し大混乱は発生する可能性は残るが)。しかしこうなると、税金無駄遣論による公務員パッシング、生活保護批判等は成立せず、高人件費率の防衛庁や文科省予算も公債対応できることとなる。

日本の一人当GDPが30年間増加しない理由を、他先進国との違いである通貨発行量にあるとし、日銀総裁交代等のアベノミクスが発動されたが、その効果はでていない。逆に韓国に追い抜かれたことがワイドショーやYouTubeでも取り上げられるから国民は自信喪失になり、ますます嫌韓ムードが高まる。

コロナ禍でもGDPは増加したが、旅客運輸業や宿泊、旅行業は苦境状態である。GOTOキャンペーンは人流促進の仕組みに矛盾があり、事業者や従業員に対する直接助成策が適切であった。セイフティーネットとしては恒常的なベーシックインカムが提案され、北欧では実験が始まっている。MMT理論であればその財源は公債になる。

社会のデジタル化により、市場に定額使い放題のサブスクリプション制度が出回り始めている。人流では定期券が期間内、区間内乗り放題であるから珍しくないが、宿泊や飲食、衣料品、娯楽等にまで広がり始めているから、生活全体を網羅できるまでなれば、ベーシックインカムと組み合わせることにより、市場を活用した共産主義が実現できてしまうかもしれない。その財源をMMT論が支えんとすると国粋主義者には想定外の話である。

謙早、長崎の新幹線駅の駅名は現行のまま使われる。

博多からは在来線特急「リレーかもめ」を利用し、武雄温泉駅で新幹線「かもめ」に同一ホームで乗り換える対面方式での開業となる。これにより、博多～長崎間が最速約1時間20分で約30分短縮され、西九州地区の振興と発展への大きな期待が寄せられる。また、既に開業している鹿児島ルートとの連携による、九州地域全体の更なる浮揚に重要な役割を果たすインフラとしても期待されている。

アメリカでほれ話 77 「美化されたアメリカ建国物語」

元JTB取締役 北村 嵩

一般的なアメリカ建国の常識は「17世紀初頭のイギリスでの宗教弾圧を逃れ、信仰の自由を求めたピルグリム(イギリス国教会の浄化を目指した清教徒・ピューリタンの一分派)たちが1620年の冬、メイフラワー号で現在のニューイングランドに上陸し、その地をイギリスの出港地の名プリマスと名付けて植民地を設立した。上陸前に入植民達は宣誓書に署名し、自由な政治団体を組織して公正で平等な法律を作成しこれを守ることを誓い合った。これがアメリカン・デモクラシーの礎となり、後のアメリカ合衆国憲法の基礎となった。」

メイフラワー号の乗員102名の内、ピルグリムはわずか41名で残りの大半は、清教徒とは敵対関係にあるイギリス国教会のメンバーで、本国でのペストの流行、戦争、寒冷での気候不順など悲惨な状況から逃げ出してきた連中だった。船中ではピルグリム達とよそ者との対立が頻発したが、いつの間にかピルグリム達が支配権を握り、他の人の意見を無視して自分達の信仰を押し付けた。上陸したのは冬で寒さが厳しく、食糧不足と船中での壊血病などで次の春を迎えられたのは半分以上の50人であった。一行の大半は都市生活者で農耕経験がなく、インディアンにトウモロコシ、カボチャ、ジャガイモなどの栽培方法を教わってやっとその秋に収穫期を迎え、インディアンを招いて祝宴を張り神に感謝した。これが感謝祭の起源である。しかし、命の恩人であるインディアンの酋長の後を継いだ息子を、ピルグリム達は食事に招待して忙殺してしまったのである。プリマス植民地の人たちは酋長の首を杭の先端に打ち付け25年間さらし続けて見物物にし、妻と子供達は西インド諸島に奴隷として売られた。プリマス植民地は「信仰の自由を求めて建設された」と言われているが、自分達の信仰に従わない近隣の植民地を脅迫し、厳しい迫害を加えて追放したのだ。イギリスでの迫害を逃れてやってきたクエーカー教徒を追放し、警告を無視して留まったクエーカー教徒4人を絞首刑にした。自分の信仰の自由は守るが、他の宗派の人たちの信仰の自由は認めない、狂信的な集団だった。

現在のプリマスは大勢の観光客が訪れるアメリカ最大の国民的史跡になっている。復元されたメイフラワー号が係留され、当時の服装をした係員が案内してくれる。彼らが上陸の第一歩を踏み出したといわれる岩(プリマス・ロック)はまるでギリシャのパルテノン神殿を思わせる巨大な円柱に囲まれ、手すりの外から拝顔するだけである。ところがその岩はピルグリム達が記念に残したのではなく、約120年後の人がこの岩が、彼らが第一歩を踏んだ岩だと宣言してから定められたのだ。

いつの世でも、どこの国でも、歴史の初めの部分は美化され、神秘化される。狼に育てられた双子が建国したとするローマ帝国、日向高千穂生まれの神が東征し初代神武天皇に繋がる日本の神話などもそうであるが、歴史の浅いアメリカでは史実の都合良い部分に創作を加えて出来上がったのが建国神話となっているのである。

小田急電鉄(株)特別社友 利光 國夫

以下「暴論」との批判を承知の上で述べる。少子高齢化社会の到来と共に、社会保障費の高騰から制度の危機が叫ばれている。特に近年老人医療費の増大は制度の根幹を揺るがせているといわれる。「人生百歳時代」などというが、その大半は何らかの病を治療している人が占めているだろう。かくいう私も半年ほど前から急激に体調不良となり、趣味のゴルフもすっかりご無沙汰している。もちろんそうではない元気な先輩たちもいるが、世間一般的には私ぐらいの年配者はまず殆ど医者通いをして、何種類もの薬を常用している。それはそれでよいのだが、問題は不治の病にかかっている。いわゆる「延命治療」をしているケースである。

どんな人でも病に伴う苦痛の軽減除去は希望するであろうが、治癒する可能性はないのにただ生理的に延命措置だけを受けるのは御免こうむりたいと思うのは、私だけではないだろう。

そもそも一説によれば、繁殖力を失った生物というのは「賞味期限切れ」なのだそう。野生動物の世界では一定の歳をとったものは群れを離れて自ら死に場所に赴くといわれるが、人間はそうはいかないものの、いわゆる延命措置だけでただ生理的に呼吸させているだけというのは、私には無意味と思われるのだ。ではどう対処したらよいかといえば、「安楽死」を公式に認めることが最大の解決策だといいたい。

私が仮に末期がん、あるいは他の原因で寝たきり状態となり回復不可能となったら絶対に「安楽死」を希望する。希望しても現在の法律では認められないのが現実だ。このことに私は全く納得がいかない。

人工的「死」は神の意志に反するというキリスト教会の見解はあるが、我が国はキリスト教国ではないし、既にキリスト教国であってもこれを合法化している例がある。身体中にチューブを入れられ、人工的に無理矢理養分を注入されてただ生理的に延命しているのと、自分で準備を整え覚悟して安らかな「死」をむかえるのとどちらを選ぶかはその人次第であるが、私は後者を選びたい。

これが実現すれば、いたずらな老人医療費の高騰問題の解決にも役立つのではないだろうか。

JN 観光立国セミナー開催について

■毎月開催の観光立国セミナーはコロナ禍感染急増により2月、3月と開催を見合わせております。

■次回176回観光立国セミナーは、講師:伊藤芳明氏(毎日新聞社論説特別顧問、TBSラジオ森本 毅郎の番組レギュラー)

■演題:「2022年の世界情勢と日本」(仮題) 日程が決まりましたらJN協会HP等でお知らせ致します。

KYOTO GRAPHIE 10



「KYOTO GRAPHIE2022」資料(写真=ギイ・ブルダン)から

東日本大震災2年後の2013年に始まった日本最大規模の国際写真展、KYOTO GRAPHIE(京都国際写真祭)が10回目を迎え4月9日から1カ月間、京都市内で開かれる。千年の伝統を守り続ける古都の寺や町家などの歴史的な建築空間に先端文化を発信する写真群を展示する。インテリアやグラフィックのデザイナーが協力し工芸職人や先進技術の企業を結び、建築と写真の調和と共存が興味を呼んで昨年まで十数カ所の会場に100万人を超す来場者を集めている。主会場は京都文化博物館別館、京都市美術館別館、祇園南の建仁寺両足院、着物・帯の誉屋屋源兵衛黒蔵、御所北側の出町枳形商店街、琵琶湖疎水記念館など。毎年テーマを掲げ、これまでLIFE(命)、LOVE(愛)、Environments(環境)、TRIBE(部族、集団)、UP(上へ)、VIBE(共振)、VISION(意識)、ECHO(呼応)などでイメージ構成した。今年のテーマはONE。1つの微塵(個)が宇宙全体を表し、あらゆるものは1つにつながり合う仏教の「一即一切、一切即一」の教えから、個々の多様性を讃えながらコロナ後の世界へ共に再生したいと願いを込める。今年はギイ・ブルダン、アーヴィング・ペン、イサベル・ムニョス、奈良原一高、鷹巣由佳ら著名作家の展覧や、国際的に活躍が期待される日本の女性写真家10人展などを繰り広げる。

KYOTO GRAPHIE 共同代表の写真家・ルシール・レイボーズさんと照明家・仲西祐介さんは大震災を機に京



動物写真が愛嬌を振りまいた=2014年4月、嶋壘ギャラリーで

建仁寺両足院の展示=15年4月



都へ移住、2人でイベント実現を思い立った。「東京一極集中の危うさを感じて京都で暮らし始めたとき、まずは自転車で街を走り回り、毎日新しい宝物を発見し、時を超えたこの街に驚かされ続けた。国際的な魅力と生の本質的な存在を共に持ち合わせる理想的な環境でフランスのアルル国際写真フェスティバルのように写真展を巡って街の歴史と新しい進化を同時に感じ取れる、時間と空間を旅するように」、日本と海外の写真、昔と現代の写真を集め、写真が多くの人びとの手に届き、生活の中に溶け込むフェスティバルを目指す。



豊敷きで展示された写真群に見入る来場者=16年5月

コロナの感染拡大で大きな影響を受けた。桜の季節に毎年開催してきたがこの2年間は延期を余儀なくされ秋開催になった。会期や会場変更の出費増、スポンサーの撤退、縮小もあり資金難に見舞われ、クラウドファンディング(ネット型資金調達)で目標を超す1千万円規模の寄付を得た。学校閉鎖が続く国内外へ「子ども写真コンクール」で発信し、未来の写真家の育成に力を入れ、家族で写真を学ぶ参加型のイベントを育む。日本の撮影・印刷技術は世界的にハイレベルだが、独創的な日本の写真家は海外の評価が先行する傾向があり、日本の表現レベルを世界に発信することも目標の一つだ。葵祭や祇園祭などと並ぶ年中行事に育てる京都発信の夢はふくらむ。

今回出展の故・奈良原一高さん=1996年6月、東京都写真美術館で写真家長野重一さん(左)と。

文・写真 林 莊祐



メディアから見た旅の変遷「旅は世につれ」その(五)

《最終回》

旅行ジャーナリスト 杓掛 博光

82年を迎えて交通網は飛躍的に伸びた。東北新幹線や上越新幹線(大宮始発)の開通、中央自動車道全線開通、そして83年には東京ディズニーランド、長崎オランダ村の開業、中国自動車道全通、84年に三陸鉄道開通、85年に本州四国連絡橋神戸・鳴戸ルート開通、関越自動車道全線開通など観光促進に必要な交通網は着々と整備され、大型テーマパークも登場。レジャーを楽しむ時代に入ったと言える。

旅行読売の特集もエリア中心から徐々にテーマ性の高い企画に取って代わられていく。テーマ性の企画とは目的を持った旅行に関する特集を指し、たとえば露天風呂を楽しむ旅とか花咲く里を訪ねる旅などである。1990年の1月号は泊まってみたい日本の宿、2月号冬の温泉、10月号露天風呂など1年間のうちテーマ主体の特集が4回。



毎年4月前後に咲き乱れる長野県阿智村の花桃

93年に入っては年12回の内、9回がテーマ性のある特集に様変わりしてきた。93年から02年の10年間に区切って見てみると、多く取り上げられたテーマは、温泉61回、公共の宿11回、ひとり旅6回とある。温泉は群を抜いている。観光目的のトップは温泉と言えよう。以下、料金がリーズナブルで設備の充実が図られている公共の宿、同行者への気遣いが不要のひとり旅と続く。社会の動向ではバブルの崩壊による経済の悪化が表面化し、97年に北海道拓殖銀行破綻、山一証券自主廃業。観光関連では98年に第18回冬季オリンピック長野大会が開催されたもの、北海道ではアルファ・コーポレーションが自己破産申請し、2000年に第一ホテルが、01年には宮崎県のシーガイアが、03年には長崎県のハウステンボスがそれぞれ会社更生法を申請。

特集の主要テーマに心身が休まる温泉、納得感のある公共の宿、自分のためのひとり旅などが並ぶ背景には当時の経済状況や暮らし方が影響し、潤いを旅に求めたのかも知れない。08年に入っては1月号47都道府県別グルメから12月号の新幹線&航空機格安の旅まですべてテーマ特集で占められ、今日に至っている。

月刊誌旅行読売を事例として、創刊号から2008年まで42年間の特集の企画とその変遷を時代の流れと共に見てきた。駆け足ではあったが、そこには2つの傾向が窺える。1つは創刊初期のころに見られる観光地域を紹介するエリア特集で、もう1つは、90年代から現在まで続くテーマ別の旅行情報、言い換えれば目的別の旅行紹介の企画である。

一方、観光を支える旅行者の動向は1970年の大阪万博を境に年々増加し、総理府統計では1970年の宿泊観光レクリエーション量は1人当たり1年間で1.02回、1億6000万人回であったが、国土交通省の2001年の統計によれば宿泊を伴う観光旅行は1人当たり1年間に1.42回、延べ人数は1億8000万人とある。旅行参加の形態を同行者の種類でとらえてみると、団体による旅行参加から個人による旅行参加へと時代と共に明確に変わってきているのが分かる。日本観光協会(当時)編による「観光の実態と志向」(2004年)の調査では、学校、職場の団体による旅行参加は1978年の19%をピークに、1990年代に入って減少し続け、2003年には7.2%と4割近く減少。また、地域や宗教行事等の団体も1976年の14%をピークに下降を指し、03年には3.6%と2割半ほど減少している。これに対して家族の参加は78年が29.7%であったが、1990年代から伸び続け、03年には44%と148%ほど伸びている。家族に次いで同行者の種類が多いのは友人、知人である。こうした動向は旅行の主体が団体ではなく、家族、友人、知人といった個による小グループであることを如実に示している。(ここで言う団体はすでに組織化されている学校などの団体を指し、募集による主催型旅行の団体ではない)

これを旅行読売の特集の変化と比較検討してみると、1990年代はエリアからテーマ性を主体に移行している時期にあたり、家族や友人など個人で行く旅行が主流になった時期と重なっているのだ。このことは個人や家族などの小単位を原点として、目的のある旅が求められていることを示すものと言える。その結果、旅行専門誌は読者=旅行者が今求めている目的の旅の情報の特集し、その情報がその時代の読者の旅行動機にもつながったと言える。



1人旅は心身が休まる近年は人気が高い

これは、主に70年代までが旅先を問わず、まず旅に出ることが求められたのに対し、それ以降の旅行者の動機は、気の合った者同士、あるいは1人で目的を持った旅を楽しむつつ、日常とは異なる世界にわが身を置きたいという願望に起因するものと思われる。それはまた、観光の旅が一層の多様性を求められていることを示し、同時に、話題のワーケーションが今目的に登場したように、従来にない価値と目的を持つ新しい旅を生む可能性も秘めている。

旅行メディアの特集記事の変遷を通して、旅はその時代を反映し、私達の暮らしに豊かさを生む文化価値を有していることを知ることができる。(おわり)